

6月29日（日）主日礼拝レジュメ

「イエス・キリストが救い主」 使徒の働き 4章5～11節

民の指導者＝宮に関わるさまざまなことを取り仕切っている人たち

長老＝信徒の指導者と祭司

学者たち＝律法を研究する学者たち

7節「おまえたちは何の権威によって、また、だれの名によってあのようなことをしたのか。」＝彼らが宮を冒瀆したことにより処罰するための理由を得ようとした。「何の権威によって」と「だれの名によって」が最大の関心事。私たちも聖書の権威よりも人のことばの方が、規則や決めごとの方が権威を持ってしまっていることはないだろうか、教会を動かしている原則は何なのか。

生まれつき足のなえた人がいて、ずっと宮に入る人たちに施しを求めなければならなかった人が完全にいやされてあなた方の前にいる。＝無知ということは何の言い訳にもならない。この事実を見て信じるべき。ペテロの忍耐強いイエスキリストご自身の証しもあったので言い訳できない。

9節「癒された」は、12節の救いと同じ言葉。ただ単に生まれつき不自由であった足や癒されて歩けるようになったというだけではなく、神の国の福音を恵みとして受けた、彼自身が内側から変えられた。

「この人が治ってあなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエスキリストの名によることです。」＝あなたたちが十字架につけたイエスキリストを死からよみがえらせたことにより、神はイエスキリストには罪がないこと、そして神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。⇒イエスの御名には力がある。よみがえられたイエスキリストは今も生きておられて、救いのわざのために働いておられる。このイエスキリストを十字架につけた指導者たちにも決して免れることのできない大きな罪の責任がある。

11節は、詩篇118篇22節からの引用。⇒捨てられたキリストの受難。イエスキリストが一度は捨てられるが、神によってよみがえらされ、すべての名にまさる名を与えられることが神のみこころであったことを明らかにされた。

12節で「この方以外には、だれによっても救いはありません。」と言います。ユダヤ人でも、このイエスキリスト以外に救いはない。それどころか、神の御子であるイエスキリストを捨て去り、十字架につけるようなことをしても、なお神にあってイスラエルの民には救いの希望がある。イスラエルの民に対する神の変らない真実な愛。

ユダヤ人であるとか異邦人であるとか人種を問わずすべての人がキリストにある救いを必要としている。キリストにある救いは罪からの救い。私たちもこのイエスキリストを宣べ伝える。

ペテロがなぜ指導者たちの前でも大胆に彼らの誤りを指摘し、キリストの救いをはっきり宣言することができたのか。8節にありますように、彼らが聖霊に満たされていたから。この方に満たされてるというのは、完全に御霊の支配の中に置かれるということの意味している。すべてを御霊におゆだねし、御霊の力が自らを通して現れるように願う。それが御霊に満たされるということ。そして、この使徒たちの姿は、ルカの福音書21章12節の預言「しかし、これらのことすべてが起こる前に、人々はあなたがたに手をかけて迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために、あなたがたを王たちや総督たちの前に引き出します。」が実現した。しかし13節で、イエス様ご自身も「それは、あなたがたにとって証をする機会となります。」と言われている通りとなった。そして15節でイエス様が「あなたがたに反対するどんな人も、対抗したり反論したりできないことばと知恵を、わたしが与えるからです。」と約束されたとおりに、みことばをもってどんな反対者も反論できず、反証できないようなことばと知恵とが与えられた。そして、この約束は、私たちにも与えられている。御霊に満たされているなら、必ず語るべきことばと知恵とが与えられる。